

第3学年3組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 「太郎さん楽しいね」 B鑑賞(1) 3時間扱い

2. 題材について～テーマにせまるために～

テーマ つくりだす喜び、感じる楽しさを実感できる授業をめざして

子どもたちは、つくることが好きで、授業での活動に限らず、日常生活の中でもつくったものを集会でプレゼントしあったり、みんなで作ったもので教室を飾ったりと、目的に合わせてつくることや、つくるだけではなく見ることも楽しんでいる。図画工作科の造形活動でも、活動自体を楽しみながら、材料の特徴やよさをいかして自分なりに感性を働かせて作品をつくっている。

このように、つくる楽しさや、自分たちの作ったものを見る体験はできているが、美術館に行くことや美術作品にふれる機会などは、普段あまりなく、作品を自由な感覚で鑑賞することの楽しさを感じるたり、他の人が感じたことを聞いたりすることはなかなかない。本題材では、岡本太郎美術館へ行き、実際に作品を見ながら鑑賞活動を行う。作家による作品の実物を鑑賞することで、学校での造形や鑑賞活動では、感じるできない作品の雰囲気にもふれることと、集団で鑑賞することで、感想を交流することが大きなねらいである。

今回の活動に際して、美術館での鑑賞に向けての事前学習を行うことや美術館でのギャラリートークを設けることで、作品に親しみ、自由な感性で鑑賞することを楽しめるようにしたいと考えた。美術館では、集団鑑賞で感想交流をする場や、個人で好きな作品を見る機会も設け、その活動の中で、集団鑑賞での問いかけや、ワークシートを工夫し、自然に活動のねらいとしている鑑賞の視点を活動に盛り込みたい。また、鑑賞した作品から感じたことをもとに、自分にとって形や色がどのように感じられるかを知り、今後の造形活動に生かせたらと考える。

3. 題材のねらい(設定理由)

- ・ 岡本太郎の作品を鑑賞して、よさやおもしろさなど、自分なりの自由な感覚で楽しむ。
- ・ 感じたことや思ったことを友だちと話し合うなどして、いろいろな見方や感じ方に気づく。

このねらいは、学習指導要領の第3学年及び第4学年の鑑賞の指導事項から来ている。この指導事項は目標「(1)進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。」と「(3)身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。」を受けたものであり鑑賞の対象も紙の切れ端の形の面白さや自分たちの作品、そして身近な美術作品と様々なものが想定されている。今回この身近な美術作品として、岡本太郎の作品を取り上げ、鑑賞の活動として設定した。岡本太郎美術館は学校から歩いて行ける距離にあり、身近な美術館として知ってもらいたい施設である。また、岡本太郎の作品は見立て遊びのように一つの作品を様々な見方、感覚で楽しめるものが多く、3年生の鑑賞としても適当であると考えた。そうして自由な感覚で感じ取った感想を交流することで、様々な感じ方があることを知り、自由に作品鑑賞を楽しむ姿勢につなげたい。

4. 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>○美術作品に興味をもち、鑑賞することを楽しもうとしている。</p> <p>○作品について自分の考えをもつことを楽しもうとしている。</p>			<p>○カードゲームをしながら作品のもつ特徴など（形や色）に目を向けている。</p> <p>○作品から感じたことを自分なりに表現している。</p> <p>○友だちの感想を聞き、様々なとらえ方ができるよさを感じている。</p>

5. テーマに迫るための手立て〈授業づくりの視点〉

意欲

〈作品カードで遊ぶ〉

自然と作品に目が行くように、作品カードを使っての遊びを設定する。

作品が印象に残るようにカードを覚えるようなルールของเกมを行う。

気になる(欲しい、取りたい、実物が見たい)カードが出てくるようなゲームを設定する。

作品の様々な部分に目が行くように、目を向けて欲しい鑑賞の視点をルールに盛り込む。(例えば作品当てゲームで使われている色をヒントにするなど)

〈本物の作品で興味を高める〉

実物の大きさや色合いを楽しむことができるようにするため、美術館で活動し本物の目の前で作品を鑑賞する。

立体作品など見る向きで変わる雰囲気を楽しめるよう、実物のよさをいかした鑑賞をする。

かかわり

〈カードゲームで作品とかかわる〉

遊びながら、気になった作品をグループで好きな名前と呼んだり、作品の雰囲気が話題になったりして作品とのかかわりが生まれるよう作品カードでの遊びを設定する。

〈美術館で実物の作品とかかわる〉

作品そのものの雰囲気が感じられるよう、実物の作品を鑑賞する。

より作品と近くでかかわることができるよう、鑑賞方法で岡本太郎美術館の剥き出しの展示や触れる作品のよさをいかす。

自分の感覚でじっくりと作品とかかわれるよう、個人観賞の時間を設ける。

〈友だちとかかわる〉

様々な考え方にふれることができるよう、感じたことや、考えたこと、疑問に思うことを話し合う機会を設ける。

共感するかかわりや、同じ表現から全く違う感想知るかかわり、様々な感想でのかかわりをもてるよう、集団鑑賞の時間を設ける。

気づき

〈作品の中の世界に気づく〉

自由な感想を引き出すように、一つの感想へ誘導するような話し方や、答えが有るかのような発問は避け、発問を工夫し、作品によって違った投げかけをする。(全体の雰囲気を感じて欲しい作品には「これはどのような場面だろう」えがかれているもの一つ一つに目を向けて欲しいときには「この中で気になるものは何」など。)

〈様々な感じ方に気づく〉

同じ作品からでも様々な感じ方があることに気づき、正解も間違いもなく、大切なことは自分の感覚で感じることに気付けるよう、教師が話の進行役となり、子どもたちそれぞれの感想を大切にしながら鑑賞活動を進める。

〈自分自身の感覚に気づく〉

形や色に対して自分がどのような印象を持っているのかを知るために、思ったことや考えたことの根拠を作品の表現と関連づける。

思考

〈作品の世界を想像する〉

自由な思考をし、なぜそのように感じたのかを作品の表現の中に根拠を見つけ、子ども自身の発想や構想へとつなげるよう、作品の情報を一方的に伝えるような話はせず、感じたままの意見を引き出す問いかけをする。

同じ作品からでもいろいろな感じ方ができるよう、立体作品など見る角度によって形が変わる作品を取り上げたり、作品を見る視点が変わるような声かけをしたりする。

作品の場面や様子を自分の感覚で想像できるよう、作品から感じたことを基に発想する機会を設ける。

〈一人一人の作品につなげる〉

表したいものをどのように表現するか、発想や構想にいかせるように、鑑賞で感じたことからつながる表現活動を設定する。

6. 準備

《児童》 筆記用具

《教師》 ワークシート 作品カード 美術館との打合せ

7. 指導と評価計画(3時間扱い)

	○ 活動内容 ☆★予想される子どもの姿	○ 教師の働きかけ ◇[意欲][気づき][かかわり] [思考]は授業づくりの視点に関するもの ◆は★の児童に対する支援・指導・手立て	○ 評価規準と評価方法
一次 45分	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 太郎さんと遊ぼう </div> <p>○みんなで同じゲームで遊ぶ。(グループ) (神経衰弱)</p> <p>☆初めてカードを見た印象を口々に言っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なんだこれ？」 ・「あ、これ知ってる」 ・「見たことある」 ・「岡本太郎さんのだ」 <p>☆遊びながら作品とふれあっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いろんな作品があるね」 ・「なかなか取れないや」 ・「だんだん場所を覚えてきたぞ」 <p>○みんなで同じゲームで遊ぶ。(クラス全体) (カード当てゲーム)</p> <p>☆ヒントを聞きながら、作品をよく見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「え？どの作品だ？」 ・「ヒントが当てはまる作品がいくつもあるよ」 ・「赤っているような作品に使われてるね」 <p>○気になる作品について話しをする。(作者はわたし)</p> <p>☆気になる作品を見つける。</p>	<p>○グループに2セットのカードを用意する。</p> <p>○作品については無理に触れず、カードでのゲームに話を進める。</p> <p>◇遊びながら、気になった作品をグループで好きな名前でも呼んだり、作品の雰囲気や話題になったりして作品とのかかわりが生まれるよう作品カードでの遊びを設定する。[意欲][かかわり]</p> <p>○鑑賞にいかせる視点を盛り込んだゲームを行う。</p> <p>◇目を向けて欲しい鑑賞の視点をルールに盛り込む。[意欲][気づき]</p> <p>○気になった作品について作者になったつもりで紹介し合う活動を行う。</p>	<p>○ 評価規準と評価方法</p> <p>【関】 美術作品に興味をもち、鑑賞することを楽しもうとしている。 (活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】 カードゲームをしながら作品のもつ特徴など(形や色)に目を向けている。 (活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】 作品から感じたことを自分なりに表現している。(活動の様子、つぶやき、対話)</p>

	<p>☆選んだ作品について考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私はこの作品を〇〇が表したくてかきました」 ・「同じこと思った」 ・「ぼくは違う感じがするな」 <p>★「気になる作品が無いや」</p>	<p>◇様々な考え方にふれることができるよう、感じたことや、考えたこと、疑問に思うことを話し合う機会を設ける。[かかわり]</p> <p>○美術館で見ることができる作品を取り上げる。</p> <p>◆形や色など鑑賞の視点を提示して一緒に楽しむ。</p>	<p>き、対話、ワークシート)</p>
<p>二次 60分 本時</p>	<p>みんな一緒に太郎さん楽しいね</p>		
<p>○岡本太郎美術館へ見学に行く。</p> <p>☆展示室にある作品に目が向く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あっ、カードのやつだ」 ・「おっきい！」 ・「これなんだ？」 <p>○クラス全員で鑑賞する。</p> <p>☆作品と向き合って考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「踊っているんだと思う。」 ・「楽しそう。」 ・「怖い。」 ・「不思議。」 <p>☆自分の感覚を大切にしながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は踊ってるんじゃなくて逃げてるんだと思う。」 ・「ぼくも怖い感じがした。」 	<p>◇美術館で活動し本物の作品を鑑賞する。[意欲]</p> <p>○いくつか作品を取り上げ、全員で鑑賞し感想交流する。</p> <p>◇雰囲気を感じられるよう、実物の作品を鑑賞する。[かかわり]</p> <p>○自由に感じたままの感想が言えるような雰囲気をつくる。</p> <p>◇共感や、全く違う感想など感じたことでのかかわりをもてるようにする。[かかわり]</p> <p>◇発問を工夫し、作品によって違った投げかけをする。[気づき]</p> <p>◇立体作品など見る向を変え、実物のよさをいかした鑑賞をする。[意欲]</p>	<p>【関】 作品について自分の考えをもつことを楽しもうとしている。(活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】 作品から感じたことを自分なりに表現している。(活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】 友だちの感想を聞き様々なとらえ方ができるよさを感じている。(活動の様子、つぶやき、対話)</p>	

<p>☆感じたことの根拠を作品の表現と関連付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人みたいに見える形が踊っているように見えるから。」 ・「黄色や赤が飛び出しているようにかかれているから楽しそうに見える。」 ・「怖いのは色のせいだと思う。」 ・「生き物みたいだけど何の動物かわからないから。」 ・「赤って怒っているように見える。」 ・「僕はこの赤はやる気に感じる。」 	<p>○作品に表現されている形や色に感想の根拠がつけられるようにする。</p> <p>◇自由な思考をし、なぜそのように感じたのかを作品の表現の中に根拠を見つけ、子ども自身の発想や構想へとつなげるよう、作品の情報を一方的に伝えるような話はせず、感じたままの意見を引き出す問いかけをする。【気づき】【思考】</p> <p>◇自由な思考をし、感じたままの意見を引き出す問いかけをする。【思考】</p>	
<p>一人でじっくり太郎さん楽しいね</p>		
<p>○個人で鑑賞する。</p> <p>☆気になる作品を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あの作品がもっと見たい。」 ・「知らない作品もたくさんある。」 <p>○自由に鑑賞して 感じたことを絵や文でワークシートにかき込む。</p> <p>☆気になる作品をじっくり見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この絵は人と人が向き合っているように見えるからきっと何かを話し合っている所だと思う。目つきや色が怒っている感じがするので、けんかしてるんじゃないかな。」 	<p>○気になる作品をじっくり見るよう声をかける。</p> <p>◇形や色に対して自分がどのような印象を持っているのかを知るために、思ったことや考えたことの根拠を作品の表現と関連づける。【気づき】</p> <p>○ワークシートに感じたことを見つけたことを絵や文で表わせるようにする。</p> <p>◇作品の場面や様子を自分の感覚で想像できるよう、作品から感じたことを基に発想する機会を設ける。</p>	<p>【関】 作品について自分の考えをもつことを楽しもうとしている。(発言、活動の様子、つぶやきワークシート)</p> <p>【鑑】 作品から感じたことを自分なりに表現している。(発言、活動の様子、つぶやきワークシート)</p> <p>【鑑】 友だちの感想を聞き、様々なとらえ方ができるよさを感じている。(発言、活動の様子、つぶやきワークシート)</p>

	<p>★「気になる作品が見つからない」</p> <p>★「何も思いうかばないよ」</p>	<p>◆“好き”だけではなく、嫌い、変、何だかわからないなど、“気になる”作品と一緒に探す。</p> <p>◆一緒に作品を見ながら想像した話や何に見えるかなどを話し、作品に意識が向くようにする。</p>	
<p>三次 30 分</p>	<p>○グループでワークシートの感想を発表し合い、感想交流をする。</p>	<p>こんなこと感じたよ太郎さん</p> <p>○学校に戻ってから活動できるようワークシートの内容を工夫する。</p> <p>◇形や色に対して自分がどのような印象を持っているのかを知るために、思ったことや考えたことの根拠を作品の表現と関連づける。【気づき】</p> <p>◇表したいものをどのように表現するか、発想や構想にかせるように、鑑賞で感じたことからつながる表現活動を設定する。【思考】</p>	<p>【関】 作品について自分の考えをもつことを楽しもうとしている。(発言、活動の様子、つぶやきワークシート)</p> <p>【鑑】 作品から感じることを自分なりに表現している。(発言、活動の様子、つぶやきワークシート)</p> <p>【鑑】 友だちの感想を聞き、様々なとらえ方ができるよさを感じている。(発言、活動の様子、つぶやきワークシート)</p>

9. 本時の活動(2/3 時間)

- ・岡本太郎の作品を鑑賞して、よさやおもしろさなど、自分なりの自由な感覚で楽しむ。
- ・感じたことや思ったことを友だちと話し合うなどして、いろいろな見方や感じ方に気づく。

	○ 活動内容 ☆★予想される子どもの姿	○ 教師の働きかけ ◆は★の児童に対する支援・指導・手立て	○ 評価規準と評価方法
40分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">太郎さんと遊ぼう</p> <p>○岡本太郎美術館へ見学に行く。 ☆展示室にある作品に目が向く。 ・「あっ、カードのやつだ」 ・「おっきい！」 ・「これなんだ？」</p> <p>○クラス全員で鑑賞する。 ☆作品と向き合って考える。 ・「踊っているんだと思う。」 ・「楽しそう。」 ・「怖い。」 ・「不思議。」</p> <p>☆自分の感覚を大切にしながら鑑賞する。 ・「私は踊ってるんじゃなくて逃げてるんだと思う。」 ・「ぼくも怖い感じがした。」</p> <p>☆感じたことの根拠を作品の表現と関連付ける。 ・「人みたいに見える形が踊っているように見えるから。」 ・「黄色や赤が飛び出してい</p>	<p>◇美術館で活動し本物の作品を鑑賞する。[意欲]</p> <p>○いくつか作品を取り上げ、全員で鑑賞し感想交流する。 ◇雰囲気を感じられるよう、実物の作品を鑑賞する。[かかわり]</p> <p>○自由に感じたままの感想が言えるような雰囲気をつくる。 ◇共感や、全く違う感想など感じたことでのかかわりをもてるようにする。[かかわり]</p> <p>◇発問を工夫し、作品によって違った投げかけをする。[気づき]</p> <p>◇立体作品など見る向を変え、実物のよさをいかした鑑賞をする。[意欲]</p> <p>○作品に表現されている形や色に感想の根拠がつけられるようにする。 ◇自由な思考をし、なぜそのように感じたのかを作品の表現の中に根拠を見つけ、子ども</p>	<p>【関】美術作品に興味をもち、鑑賞することを楽しもうとしている。 (活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】カードゲームをしながら作品のもつ特徴など(形や色)に目を向けている。 (活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】作品から感じたことを自分なりに表現している。(活動の様子、つぶやき、対話、)</p>

	<p>るようにかかれているから楽しそうに見える。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「怖いのは色のせいだと思う。」 ・「生き物みたいだけど何の動物かわからないから。」 ・「赤って怒っているように見える。」 ・「僕はこの赤はやる気を感じる。」 	<p>も自身の発想や構想へとつなげるよう、作品の情報を一方的に伝えるような話はせず、感じたままの意見を引き出す問いかけをする。【気づき】【思考】</p> <p>◇自由な思考をし、感じたままの意見を引き出す問いかけをする。【思考】</p>	
20分	<p style="text-align: center;">一人でじっくり太郎さん楽しいね</p> <p>○個人で鑑賞する。 ☆気になる作品を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あの作品がもっと見たい。」 ・「知らない作品もたくさんあるな。」 <p>○自由に鑑賞して 感じたことを絵や文でワークシートにかき込む。 ☆気になる作品をじっくり見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この絵は人と人が向き合っているように見えるからきっと何かを話し合っている所だと思う。目つきや色が怒っている感じがするので、けんかしてるんじゃないかな。」 <p>★「気になる作品が見つからない」</p> <p>★「何も思いうかばないよ」</p>	<p>○気になる作品をじっくり見るよう声をかける。</p> <p>◇形や色に対して自分がどのような印象を持っているのかを知るために、思ったことや考えたことの根拠を作品の表現と関連づける。【気づき】</p> <p>◇立体作品など見る向きで変わる雰囲気を楽しめるよう、実物のよさをいかした鑑賞をする。【意欲】</p> <p>◇作品の場面や様子を自分の感覚で想像できるよう、作品から感じたことを基に発想する機会を設ける。</p> <p>◆“好き”だけではなく、嫌い、変、わからないなど、“気になる”作品を一緒に探す。</p> <p>◆一緒に作品を見ながら想像した話や何に見えるかなどを話し、作品に意識が向くようにする。</p>	<p>【関】 作品について自分の考えをもつことを楽しもうとしている。(活動の様子、つぶやき、対話)</p> <p>【鑑】 作品から感じたことを自分なりに表現している。(活動の様子、つぶやき、対話、ワークシート)</p> <p>【鑑】 友だちの感想を聞き様々ならえ方ができるよさを感じている。(活動の様子、つぶやき、対話)</p>

作品カードで遊ぶ

- 作品がプリントされているカードで遊ぶ。
- 「神経衰弱」や「ばば抜き」など子どもたちがよく知っているトランプゲームで楽しむ。
- 目を向けて欲しい鑑賞の視点をルールに盛り込んだゲーム「カード当てゲーム」や「連想ゲーム」などで楽しむ。

- ※4、5人のグループで活動する。
- ※ループで2セットカードを用意し、同じカードが2枚1組になるよう用意する。
- ※初めから作品の話が無理にせず、カードゲームを中心に話を進める。※気になる(欲しい、取りたい、実物が見たい)カードが出てくるようなゲームを設定する。
- ※形や色の特徴をヒントにするなど、鑑賞にかせる視点を盛り込んだゲームを行う。

鑑賞ゲーム

- ◎遊びながら、気になった作品をグループで好きな名前と呼んだり、作品の雰囲気話題になったりして作品とのかかわりが生まれるようになる。
- ◎作品の様々な部分に目が行くようになり、作品固有の特徴や、複数の作品に共通している表現に気づくことができる。

トランプゲーム

- ◎ゲームで遊ぶ中で、カードを見たり覚えたりする必要があり、自然と作品が印象に残る
- ◎それぞれのカードが、同じものか違うものかに注意して見ることで、作品を注意して見るようになる。

※気になった作品について作者になっただけのもりで紹介し合う活動を行い、自分の感覚で作品について表現する。

※様々な考え方にふれることができるよう、感じたことや、考えたこと、疑問に思うことを話し合う機会を設ける。

※作品の情報を教えるだけの作品紹介は避ける。

作品カードで鑑賞

- 作品カードの中から気になる作品を選んで紹介する。
- 発表内容は、作者の意図に近づけるのではなく、子ども自身の感覚で作品に表現する。

カードで鑑賞

- ◎カードが各グループにあるため、少人数で作品の姿を見ながら鑑賞活動ができる。
- ◎クラス全員の前で発言することが難しい子どもにもグループでの発表で抵抗感が少なくなる。
- ◎カードでの活動後、美術館へ行く場合でも、作品が印象づけられて意欲が高まる。

作品カード

- ◎美術館にある作品がカードとして集められているものが多い。→実物を見る機会が期待できる。
- ◎ある程度数作品が集められているので、鑑賞資料が揃う。
- ◎美術館へ行かなくても作品鑑賞が行える。

美術館で鑑賞

- 地域の施設と連携して活動する。
- 実物を見る。
- 写真ではわからない立体の様子を見る。

事前の鑑賞

- ◎美術館へ来る前に、カードなどで活動を行っている、子どもたちが知っている作品が美術館で見ることができる。
- ◎子どもたちは知っている作品、見たい作品を見に自分で美術館に行くという機会は少ないと思われるので、美術館へ行く楽しさにもつながる。

作品鑑賞で大切にしたいこと

- ※自由な思考をし、なぜそのように感じたのかを作品の表現の中に根拠を見つけ、子ども自身の発想や構想へとつなげるようにする。
- ※作品の情報を一方的に伝えるような話はせず、感じたままの意見を引き出す問いかけをする。

※実物の大きさや色合いを楽しむことができるようにするため、美術館で活動し本物の作品を鑑賞する。

※共感するかかわりや、同じ表現から全く違う感想知るかかわり、様々な感想でのかわりをもてるよう、集団鑑賞の時間を設ける。

※自由な感想を引き出すように、一つの感想へ誘導するような話し方や、答えがあるかのような発問は避け、発問を工夫し、作品によって違った投げかけをする。

※立体作品など見る向きで変わる雰囲気を楽しめるよう、実物のよさをいかした鑑賞をする。

集団鑑賞で大切にしたいこと

- ※自由に感じたままの感想が言えるような雰囲気をつくる。
- ※共感するかかわりや、同じ表現から全く違う感想知るかかわり、様々な感想でのかわりをもてるようにする。

美術館との連携

- ◎地域の美術館と連携することで、鑑賞活動を美術館職員と相談することができる。
- ◎作家や作品についての情報など必要に応じて情報を得られる。
- ※美術館職員に活動を進めてもらう際にも、活動の観点や評価の視点は教員がしっかり把握して活動を見取る。
- ※作品の著作権などを考慮し、画像などの使用には注意する。

楽しいね太郎さん

☆えらんだ作品 3年 組 番()

こんな作品！(作品の物語やどのような作品かなど自由にかこう)

☆見つけたよこんな生き物(スケッチしてみよう)

きつとこんな生き物

きつとこんな生き物

資料Ⅲワークシート(作品カード鑑賞用)

楽しいね太郎さん

3年 組 番()

☆えらんだ作品 番

こんな作品！(作者になったつもりでしようかいしよう)

資料Ⅳワークシート(感想交流用)

こんなこと感じたよ太郎さん

友だちの話を聞いて 3年 組 番()

()さんの話	()さんの話
()さんの話	()さんの話